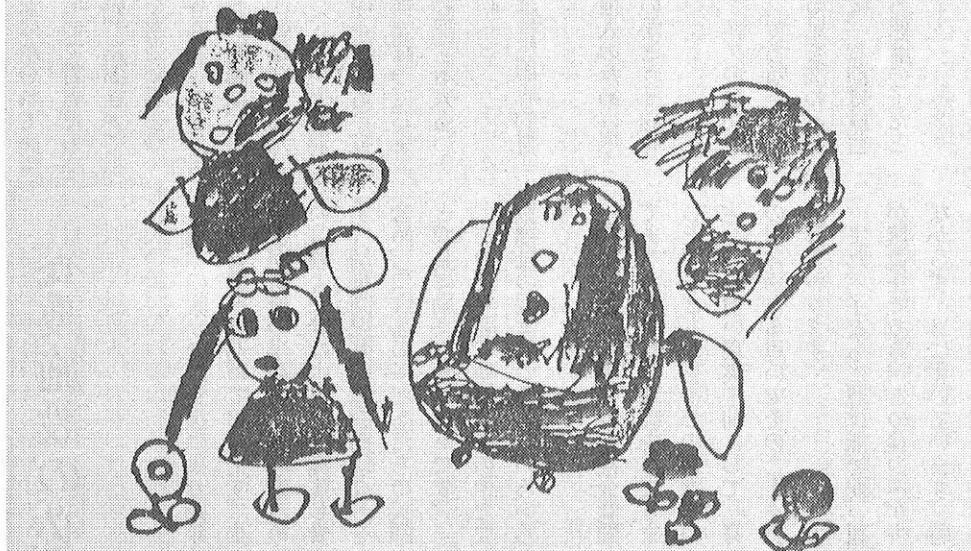


光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家
 編集／光の子 編集委員会
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
 TEL／0480-72-3883
 振替／東京3-128022
 印刷／(株)ドモン企画



たのしいな！

互いに足を洗い合え（ヨハネ十三・十四）

理事長 福島 熟

本年度の事業計画の主題に「互いに足を洗い合うべきである」と聖書のことばを掲げた。

イエスはこの世を去って父のみもとに行くべき自分の時がきたことを知って、弟子たちに示された教えである。聖書は世にいる自分たちを愛して、彼らを最後まで愛し通されたと記している。足を洗うというのは当時奴隸のするところである。イスラエルでは過越の祭りの際、家長が家族の者の手を洗うという儀式はあったようだが、足を洗うというのは奇抜な行為である。

そしてこのようにお互に足を洗い合ふといえども、イエスは命じられる。イエスの洗足は、最後まで弟子たちを愛しつづけられた愛の表現である。時間的に最後までといふ意味でなく、最大限の愛の表現である。

われわれの側にあって互に足を洗い合うことは、奉仕という愛の意味である。

五色先生は、今日モラトリアム的行為者が多いと指摘される。モラトリウムとは支払猶予とか延期とかいった、経済界の用語だが、余力を尽して事に当るのではなく余力を残し、悪くいえば、力を出し済つて、いい加減なところでとめておくといったことである。いまひとつ現象として精神医学でいう、シゾイド（分裂性格）に陥っているといわれる。それらの徴候の一つには、人間嫌いで人の関わりをもつことによって自

表現で限定された領域だけでなく広く世に及ぼすべき行為である。

威圧されて不承不承に行うのでなく、愛のゆえの行為であり、それによって、愛の根源たるキリストの現在を表わす業なのである。

今日は自己閉鎖の時代である他人から自分の領域を侵入されると、自分もまた人のことに関わることをさける。

慶應義塾大学前医学部の小此木啓五先生は、今日モラトリアム的行为者が多いと指摘される。モラトリウムとは支払猶予とか延期とかいった、経済界の用語だが、余力を尽して事に当るのではなく余力を残し、悪くいえば、力を出し済つて、いい加減なところでとめておくといったことである。

いまひとつ現象として精神医学でいう、シゾイド（分裂性格）に陥っているといわれる。それら

反抗することもなく適当に場をつくるっている。

こうしたシゾイド的傾向は、歐米では結婚をさけ、好きな者とだけつき合い、同棲し、いつでも別れることの自由を保っている。家族といったものがなくなってしまったのではないかと心配する人もいるそうである。

シゾイド的人間は自己中心的自己愛の人間である。

なぜ、わたしが他人のために尽くさねばならないのかとうそぶくであろう。

イエスの洗足は、ユダの裏切りを承知の上での行為である。

順々に弟子たちの足を洗われてユダのところにきて、お前は駄目だ、わたしを裏切る悪魔の子だとも言わなかつた。

そして、これでユダの反逆を思いとどまらせたという効果があつたとも書かれていい。

それにもかかわらず、最後まで愛される愛の行為である。

★俳句エッセー

一茶と子ども

懺 執（俳人）

子どもを詠った俳句の古典で、一般的によく知られているのは、雪解けて村いっぽいの

子ども哉 小林一茶

一茶の地、奥信濃柏原あたりは俗に一里一尺（一里北上することに一尺雪が深くなる）と言われる豪雪地帯である。それだけに里人の春への待望は一入であるにちがいない。雪解がはじまる、長い冬籠りの生活から解放される嬉しさを頗じゅうに漲らして、子どもたちがます村辻などに群がる。そんな子どもたちの激刺とした姿、春の到来を見ている句である。

「村いっぽい」という表現に、その嬉しさが躍動しているようだ

一茶はこの句の他にも、△雀の子そこのけそこのけお馬が通る△瘦蛙負けるな一茶これにあり△など童心に通う諸作によって、良寛のような慈愛にみちた人物像を思い描かれることが多いが、実像

はもつと屈折していたようだ。

一茶は、宝曆十三年（1763）信州柏原に農家の長男として生まれるが、三歳の時母と死別、七歳からは繼母に育てられる。誠実な人のようだったが、この母に異母弟ができたことなどもあって、かなり金んだ少年期を送ったらしい。

十五歳の時、心配した父親の計算で一茶は江戸へ奉公に出される。だが当時の江戸は、田舎育ちの少年をやすやすと受け入れてくれる都会ではなかつた。奉公先を転々としながら、一茶は俳諧に凝る。天分にも恵まれていた彼はだいに江戸俳壇で頭角を現し、二八歳の時には、師の竹阿の衣鉢を継いで宗匠として立机。夏目成美など俳界第一流の知遇を得たが、封建色の濃い江戸社会は総じて身分の低い流れ者の一茶に冷たかった。△椋鳥と人に呼ばれる寒さ哉△は、この時期の一茶の自嘲句だが、「椋鳥」とは江戸に流入していく

信州人を指しての蔑称であつた。

三九歳の時父親が死去、帰郷した一茶は、遺産分与をめぐって继母と異母弟を相手に凄絶な争いを繰り返す。繼母親子の當々たる努力で増やした田畠も含めて、その半分をよこせと迫るのである。その争いは何と十余年に及ぶ。ついに生家を真二つに仕切つて、その片方を強引に占拠するという実力行使に出てまで、一茶はほぼ要求を貫徹する。

これによつて一茶は郷里永住を決めるのだが、江戸で冷遇されたとは言え、江戸俳諧宗匠の名は信州ではものを言って、多くの門弟を集めただよだ。また強奪同様に手にした田畠からほ小作料も入り一茶は初めて妻を娶る。実に五二歳の時であった。

頭掲△雪解けて△の句は、こうして一茶がうぶすな地によつて安定期を見出した時期の作。骨肉の争いに明け暮れた一茶の心を和ませたものは、無心に遊ぶ子どもたちの姿であったのかも知れない。

そのあとは子供の声や鬼やらひとし問へば片手出す子や衣更

度自の歩みを進めております。小学生が定員の半数の十五名を占めます。幼稚園児九、就園前児五を含め、二九名の子どもたちの笑顔と成長に励まされる日々です。

この三年間、施設現場の中で児童福祉の現実について、いろいろ考えさせられています。

養護問題は、すぐれて社会問題である、と学校で講義をしてきました。子どもたちやその親たちの生きしく重い現実を前にして、身の引き締まる思いでそのことを確認しております。

また、子どもに罪は無いが、親が無責任である、との巷の声が少なからず、耳に届いています。特にそれが、懸命に子どもの養育に当たっている親たちの声であるとき、その心情は痛いほど理解できます。ただ、入所児を施設で養育することの社会的意義を思うとき、

さらば、わが国も、離婚などによる子どもの家庭養育困難な状況は、例外的には考えられない時代を迎えていると実感します。旧来の親族や地域を中心とした家庭の構造が、都市部で核家族をもつて形成されるため、夫婦間の葛藤や破局が家庭内養育困難に、直接的に反映するものと考えます。

心身に病を得れば医師、病院などの医療機関にかかります。それが通院で間に合わなければ入院します。病気入院に対応する社会的施設として設置され、例外的な施設としてよりは、社会に必要な施設として位置づけていかなければなりません。

現実には、養護施設は、まだまごとに多様化する社会の中で、例の見方も少なからずあります。

もとより、施設養護が繁盛することを望むものではありませんが、そのためにも、施設養育の内容を複雑に多様化する社会のなかで、例外的で無駄な存在としてのみ考えることはできません。むしろ社会の病院的な諸事情で家庭養育が困難になつたとき、子どもを適切に養育し、親たちの家庭の再建の助けとなる社会的資源として、的確に位置づけることが必要と考えます。

☆時事エッセー

「意味ある」死を——とは

大友 慶次

(渋谷区立心身障害者福祉センター)

—— 脳死という、死の概念を考えようとしたのですね。

「生命倫理」という枠の中で考

えようとしたのですね。

今年（一九八八）一月十二日、日本医師会に対し、脳死と臓器移植問題を考えるよう設置された

いた懇談会が最終報告書を答申し、一月十九日日本医師会理事会はこれを承認し、日本医師会の統一した意見（考え方）としてこれから影響を及ぼすことになったのでし

た。これに対し日弁連は四月十六日に「患者の人権保障が不十分な現状のまま、脳死を人の死と認め、脳死患者の臓器移植を容認することには反対する」との意見書をまとめました。脳死という医療技術の進歩の中で直面した事態に、いま社会がこれを単に医療現場のみの問題として取り扱っては困るとの反論を想起して、脳死問題とか臓器移植問題といわず「生命倫理懇談会」としたのですね。

—— で、この（「日医倫理懇」）

答申を新聞でみたとたん、第一のホロコーストだと言ったのですね。そお、ぼくは写真で見るアウシユビツツの髪の毛の山や善足の山ラップショードや石鹼を想いだしました。臓器を待つ人がおり、それで救命命を果たす人がいることは承知しているのですが、今回加藤一郎（座長）氏が「法学教室二月号」に書かれた論文を読んでも狙いが骨腫にそして性急に述べられており、「新しい生命技術を利用したい人（賛同者）はそれを利用し、それに抵抗があつていやだという人（反対者）はそれを利用しない、ということを基本に考えていくことが必要であり、（中略）賛同者が自己の責任で選択したことに対しては、反対者も寛容な態度をとり、それを妨害しないことが望まれる」（十三頁）と断言されと怖ろしい身震いを覚えました。

—— 死の一回性、個別性が捨

象されてしまっているのだと。

妻節子が脳腫瘍で倒れ、手術の後、植物人間から徐々に回復し、しかしとうとう命尽きたとき子ども四人は段々と冷たくなってゆく母のからだの温みを追い求めて手

を重ねあつてたのですが、最後にお腹のところが残るのですね」。

心臓のところが一番最初まであつたかかった。それまで三時間一緒に居てあげて「死」が子どもたちの中に「受容」されたのをぼくは確認した。それから一度、竈の中に棺を入れ扉を閉められ「ボツ」に火が点された時、四人とも号泣

したのですが、それからは一度も泣かなかった。母の体の温みをなで回しながら、あの時「お別れ」をしてたんだとぼくはおもったのでした。血のしたたる新しい臓器

が欲しい、という思いがこうも突き出してくると恐怖を覚えます。脳

死が考えられているのではなく

「臓器移植」のために、脳死を規定しようとしている。思いがあまりに見えすぎていて露骨です。おまけに「善意の人（答申）」などとドネイションをおだてられたり

すると、人がどう人に対するかの人格の領域のことであり、この領域へは踏み込んでもらいたくない

という不快感を覚えるのでした。

——しかし、「死」をむだにするな、とも。

そういう考えが生死を貫いているのでしょうか。胎児の段階で障害児だと判明できるからその「生命」は殺す。殺してもいい。だって胎児は何週までは「人間」でないからって。一体人間でない生命が宿ってどうして何週目から突然「人間」になるのでしょうか。用不用（要・不要）で死を捉えるところにこの世に迎える生命の「要・不要」を論じて当たり前だと風潮を産みます。不要な生徒、不要な会社員、不要な子ども・老人。誰にとって不要なのでしょうか。「誰」の主体が置き換わったらどうなるのでしょうか。

臓器移植のため脳死が判定されレスピレーターが取り外されると、反対に臓器の鮮度を保つため動かされ続けるレスピレーター。不気味です。「死」の人格性に、ぼくはいままだわっているのです。

輝きのかたち その1

池田 祐子

現場から

深いオレンジ色の朝焼けと薄赤紫色の夕焼けが美しいこの地でわたしは四年目の春を迎えました。

そして、三人の担当となりました。

86年10月、高雄ちゃんは指しあぶりをしている大きな赤ちゃんとでした。たくさんの欲求がそのままにありました。高雄ちゃんは指しあぶりをしている大きな赤ちゃんとでした。たくさんの欲求がそのままにありました。

86年10月、高雄ちゃんは指しあぶりをしている大きな赤ちゃんとでした。たくさんの欲求がそのままにありました。

大きい身体中にぎっしり詰まっているように、いつもダイナミックな行動で、まわりの者をハラハラさせていたながら、わたしに要求す

るのは殆どダッコ。竹花保母から移行されて、わたしが担当した初めての子どもです。同じ原田家のことでスムースに完了しました。

三才なのに大きな高雄ちゃんはズシリと重く、華奢なわたしの身体に伸しかかりました。抱っこだけで

担当者が替わることに不都合がないという三才の子どもに、神経が逞しいと思えば思えないこともない高ちゃんなのですが、大きな問題を感じさせられながら、その解

高ちゃんの成長や生活ぶりなどを伝えてお出でを待ちました。数日たってやって来た「パパ」に、オズオズしながらも輝く大きな目。

今は2ヶ月に一度は確実に来てくださいはないが、と思いはじめ、気

に入ってくれる様子が手に取るよ

うに分かりました。笑顔が増えて一緒に遊ぶことが多くなり、言葉も飛躍的に多くなりました。人が

「うるさいね」「静かにしてよ」と言っても、気にしない、気にしないと一休さんのように超然として得意のボーカル・ソプラノで歌い続け、話し続けます。そうなれば回りの者は諦めておしまいです。

ベンキ職人のお父さんから受け継いだであろう頑固一徹といった気質と、空箱、空袋などに示す興味・関心は立派な職人と言えます。

元気に入園しました。元気によく笑顔で、お友だちと一緒に幼稚園に行けるといいね高雄ちゃん。その時には、幼稚園のことをたくさんお話しよろね。

八七年七月 固く目を閉じるこの成長に、見逃してならないのは

「パパ」の支えです。最初はなかなかやって来てくれない「パパ」でした。夜、仕事から帰ってくる

「パパ」をアパートに訪問して、

たちがたくさん話しかけ、笑いかけ、一緒に遊んでくれました。ま

ず、ここが自分の家として中々いではないか、と思いはじめ、気

に入ってくれる様子が手に取るよ

うに分かりました。笑顔が増えて一緒に遊ぶことが多くなり、言葉も飛躍的に多くなりました。人が

「うるさいね」「静かにしてよ」と言っても、気にしない、気にしないと一休さんのように超然として得意のボーカル・ソプラノで歌い続け、話し続けます。そうなれば回りの者は諦めておしまいです。

ベンキ職人のお父さんから受け継いだであろう頑固一徹といった気質と、空箱、空袋などに示す興味・関心は立派な職人と言えます。

元気によく笑顔で、お友だちと一緒に幼稚園に行けるといいね高雄ちゃん。その時には、幼稚園のことをたくさんお話しよろね。

八七年七月 固く目を閉じるこの成長に、見逃してならないのは

「パパ」の支えです。最初はなかなかやって来てくれない「パパ」でした。夜、仕事から帰ってくる

「パパ」をアパートに訪問して、

日誌抄

二月十六日(一)
四月十五日

とうございました。

三月二〇日(二) 各家でお山に
お出かけに、連休を楽しむ。

二三日 幼稚園卒園式。四名の子
午前九時、一二時。八時半、深
夜にわたって、次年度の計画の
ために、年度の反省が、この日
は各家、各委員会。3月まで。

三四日 幼稚園に入園するお友だ
ち四人が、一日入園。

三月一日 栗橋町のピエロさんか
らおいしいパンがたくさん。い
つもありがとう。

三月一日 お雑祭り。幼稚園ではお遊
戯会。ステキな主役の一役。

四日 名古屋市若松寮より見学。
上智大学生見学。

一日 幼稚園年長組よいよお
別れの日近く、記念の遠足に。

七日 第一四七回職員会議。次年
度の個人別養護計画作成に深夜
まで。遅れを挽回。

一五日 新しく一年生になる子ど
もたちに、かもめ文具店よりエ
ピツを、大宮福祉事務所より図
書券を。ありがとう！

一八日 幼稚園の謝恩会。手のか
かる時期の子どもたちをありが
とう！

二九日 学童が自分たちで一年生
の歓迎会を。さまざまなもの才
ニギリやくすれっぱなしの目玉
焼きなどを一生懸命作って。

三日 館山理可退職。三年間ご
苦勞さま、そして、ありがとうございます。

一九八八年度始まる。

四月一日 竹下由香就任。第一五
回職員会議。今年度の事業計
画及び予算の説明と確認、決意
を新たにして第一歩を。

二六日 第一四回理事会。事業計
画、予算案、原案通り承認。

二七日 東大富教会八木橋さんよ
り新一年生にプレゼント。感謝。

二八日 恒例になった、今年度も
がんばった会。それぞれが去年
の四月に担当者と一緒にたてた
目標や課題をどんなふうに克服

したかを発表し、みんなから評
価と祝福を。光の子どもの家第
一期調理名人の中村さんや鎌田

さん保母さんたちが腕にヨリを
かけた、マカロニグラタン、シ
ーフードサラダ、プリンの夕食

を一緒に、ジュースで乾杯！

七八日 小学校入学式。四名。

一一日 幼稚園入園式。三名が。
町内の片山、利根川、宇津木、
中島、板橋の石井各氏からご支
援。感謝。今年度も！（くら）

反射光

真夏のような暑い

日が続いたと思う
と、春先のような

肌寒い日が繰り返し、段々夏へと
季節が傾いています。子どももの
成長も直線的ではありません。ガ

キ大将の面構えで赤ちゃんのよう
な仕種をするアンバランスがいつ
の間にか立派なガキ大将然として

登校の列をなし植田の風と化して
いきます☆「春燈」の俳人兼塾氏
の俳句エッセーを六回にわたり

お米や玩具のご寄付。感謝。
一日 町内の大塚氏、渡辺氏より

三日 復活祭。東大富教会で礼拝
から帰り、園庭で恒例の宝探し。

四日 江森理容店主が新年度の散
髪を。毎月のご奉仕に感謝。

五日 今年度もがんばろう会。各
人が今年の目標を発表。直之さ
んの変なキヨンシーと光代さん

のステキな菊地桃子の扮装が大
受け。みんなで歌って踊って。

七日 栗橋ロータリークラブより
決意書はカブセルに入れて園庭
の山に埋める。頑張るぞ！

ご寄付を。感謝。

二九日 学童が自分たちで一年生
の歓迎会を。さまざまなもの才
ニギリやくすれっぱなしの目玉
焼きなどを一生懸命作って。

地の地盤沈下の激しさには驚かさ
れますが、この整地と補修、定貢
外職員の確保ともども必要を満た
されました☆皆さまのご支援に感
謝し、応える働きを。今年も（哲）